

関西カタルーニャセンター主催
第20回絵本翻訳コンテスト 最優秀賞受賞作品
訳 實川 智子

ジョルディ・アメロス & アルベルト・アラヤスの

アイデアって、どこからくるの？

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

むかしむかし あるところに なかよし^{ごにんぐみ}5人組がいました。

いつも みんなで山^{やま}へ行^いったり、あれこれいろんなことをして いっしょにあそんでいました。

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

ある^{あめ}雨^ひの日、みんなは^{いえ}家^{なか}の中で あそんだり、^{たの}なに^えか楽しい絵を かくことにしました。

でも あれっ??…… ジュリアの^{あたま}頭^{なか}の中は ぼかーんと^{しろ}まっ白!

パウ、ルーくんくん、^{オノフ}OnOff ロボ、そしてあの(なまけもの)サーディにゃんまで!

^{おも}思いつくことを ^えどんどん絵に かいていっているのに、ジュリアは ^{なに}何をかけばいいのか わかりません。

^{おも}思わず ジュリアは ^いしんぱいそうに言いました。

「ねえ! いったい^{なん}何^えの絵をかけばいいの! ?

なんで わたしの^{ところ}所には
アイディアが^き来てくれないの?」

みんな、**アイディア**がどこからくるのか わかりません。
すると ルーくんくんが言いました。

「おいら、わかる人 知ってるぜ！ついてきな！」

雨上がりのなか なかよし組は ルーくんくんをせんとくに いっせいに 家をとび出しました。
森につくと ほらあなのような 大きな大きなあなの開いた木を 見つけました。

「なーんにも^み見えない！」

とパウが^い言いました。

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

そこで OnOff ロボが かいちゅうでんとうのように 二つの目をスイッチオン！
ピカーッとあなの中をてらすと 長い道がのびていました……
なんて 不思議な木なんでしょう！

みんなは くらやみをてらす OnOff ロボの 後ろにくっついて歩きました。
ふと、サーディにゃんが ルーくんくんに聞きました。

「なんで このばしょを知ってるの？」

「おいらのボールがここに おちたことがあって、そのとき 友だちになった人がいるんだ、
今じゃ ときどきやって来て、いっしょにあそんでるのさ」

トンネルのおくに ぼんやりとあたりが見えた そのとき、
だれかの声が聞こえてきました。

「そこにおるのは だれじゃ？」

みんなが びっくりして とび上がると ルーくんくんが言いました。

「こわがらないで！ アイディアの天才の声だよ！

この まほうの木のなかに住んでんだ！」

みんなが おそろおそろ もう少しだけ前にすすむと
そこには 本や絵でいっぱいのもやもやが広がっていました。

そのゴチャゴチャした へやのまん中に
にっこりとほほえむ アイディアの天才がいました。

「いらっしゃい！ ささ、入っておくれ！

ちらかって すまんね……

わし、かたづけが へたくそなんじゃよ！

さてさて 今日(きょう)はなんのご用(よう)かな？」

「いったい どうすれば わたしにも
アイディアがやってくるの？」

とジュリアが言いました。

「ほお～！なるほど！おやすいご用^{よう}じゃよ……

つまり ^{たの}楽しくて ^{うた}やさしい詩のようで みんなのためになる……

そんな ^みすてきなアイデアの^し見つけかたを ^し知りたいのじゃな？」

「はいっつっつっつ！」と なかよし^{こにんぐみ}5人組は ^{こえ}声をあわせて ^{こた}答えました。

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

「かんたんじゃよ……」

アイデアのようせいとお友^{とも}だちになれば よいのじゃ！」

「それって どんな ようせいなの？」とパウが聞^ききました。

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

アイデアの天才^{てんさい}が ゆっくり^{はな}話しはじめました。

うむ、アイデアのようせいは いい子^こたちじゃよ、
わしら人間^{にんげん}の目^めには 見え^みんがな
よくわらう子^こたちでな、わしらが聞^きいたこともないような
べっせかいを たびするの^が だいすきなんじゃ

ある子^こは土^{つち}の中に、ある子^こはお星^{ほし}さまの ずっとむこうに住^すんでおる……
よくこっそりと 音楽^{おんがく} と 詩^{うた}のことは 間^{あいだ}にも かくれておるぞ

アイデアのようせい だけが

わしらのせかい と ほかのいろんなせかい との間^{あいだ}を
行^いったり来^きたりできてな、

すばらしいものを
見^みつけてまわるのじゃ……
うた
歌

けしき

ものがたり

ふしぎな
い
生きものたち……

じゃが そんな ようせいたちが
アイデアをささやきに やって来るのは
きみが かれらの だいすきなことをして
かれらが それを 見たときだけなんじゃ。

「たとえば どんなこと？」とパウが聞きました。

アイデアの^{てんさい}天才が にこやかに^{こた}答えました。

ようせいたちは、きみが**おどったり** ^{うた}**歌**ったりするのを ^み見たいんじゃよ！

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

きみが しずか にしておるときも

ようせいたちは だいすきじゃよ

すーっ はーっ と ゆっくり いきしても いい

めをつむって ^{じぶん}自分の ^{こころ}心の ^{こえ}声を ^き聞いても いい

めを ひらいて ^{なに}何かを ただじっと ながめても いい

きみが しぜんの きれいなものたちを まじまじと見つめたり
もり 森や そら 空や うみ 海にある すてきなものたちを もっともっと知りたいと ねがうとな、
ようせいたちは もう うれしゅうて わらいが止まらんわい！

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

もし ^{いま}今 ^い言ったことをぜんぶ カチコチの ^{あたま}頭でやってしまうと
ようせいたちは ビクビク こわがってしまってな…… きみに ^{ちか}近づくことも
^{あたら}新しいひらめきを ささやくことも できなくなって しまうんじゃよ。

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

あと これが一番 ^{いちばん} 大切 ^{たいせつ} なんじゃ……

なに ^{なに} 何かをするときは いつも ^{あい} 心 をこめてすることじゃ

そうすれば ようせいたちは うれしくて メロメロになるじゃろうよ！

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

パウ、ジュリア、サーディにゃん、ルーくんくん、そして OnOffロボは
ぽかぽかの えがおで アイディアの天才の ほらあなに おわかれしました。

なかよし組は その日 みんなであそんで 歌って
しずかに目をつむったり、その目をひらいて 何かをしっかりと見つめたりして すごしました。
一つ一つのこと ぜんぶに 心をこめて。

そ~っとしずかに ニコニコ クスクス、アイディアのようせいたちが だんだんと近づいてきていました。
ジュリアがぼんやりしていた そのとき!ふしぎで びっくりするようなことが 耳元で ささやかれたのです。
そのとたん、ジュリアは パーッとかがやく えがおになり なかよし組のみんなに 大声で言いました。

「アイディアが やってきたー!!!」

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。

その夜^{よる} みんなで いっしょに見たのは お月さまの^{つき}
ゆめでした（ルーくんくんのだけ バニラあじ♪）。
そして アイディアのようせいたちは ゆめの中^{なか}に
そっと すてきな たからものを おいていってくれました。

おやすみなさい！

※本テキストは、関西カタルーニャセンター主催「第20回絵本翻訳コンテスト」において最優秀賞を受賞した翻訳作品です。
個人的な閲覧目的以外での利用、転載、複製などをご遠慮いただきますようお願いいたします。